

京都大学の教育に係るアンケート実施結果

1. アンケートの概要

(1) アンケートの目的

学部を卒業、または大学院を修了する学生から本学の教育についての総括的な意見を聴き、本学の教育を検証し、改善を図るため。

(2) アンケート実施・集計の方法

①アンケート対象

2024年3月に学部を卒業、または大学院を修了した学生

②アンケート実施方法

既存の進路状況調査、卒業・修了時アンケートに併せて実施
ウェブアンケートシステム、または質問用紙にて回答

③アンケート実施期間

2024年2月8日～4月12日

※ウェブアンケートの回答期間

④アンケート内容

Q1. 大学から卒業・修了時まで学生が身に付けるべき知識や能力が明示されている。

Q2. 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。

Q3. 教員が学生と向き合って教育研究に取り組んでいる。

Q4. 大学での学修によって成長を実感している。

選択肢：①そう思う、②ある程度そう思う、③あまりそうは思わない、

④そうは思わない

※上記質問は、今後の継続実施を考慮し、文部科学省が実施を予定している全国学生調査から質問を抜粋、一部表現を修正したものである。なお、英訳は本学で用意した。

※学部・研究科が実施する既存の卒業・修了時アンケートに同内容の質問が含まれていた場合には、既存の質問を活用してアンケートを実施した。

⑤アンケート回答数

学士課程： 2,347 件 (2,828 名、83.0%)

修士課程： 1,999 件 (2,261 名、88.4%)

専門職学位課程： 246 件 (312 名、78.8%)

博士課程： 463 件 (844 名、54.9%)

※丸括弧内は、対象者数と回答率（小数点第2位を四捨五入）である。

※一部の質問に対して無回答の回答者がいたため、回答数と設問ごとの集計の合計が一致しない。

⑥アンケート集計方法

課程に区分して単純集計した。

なお、既存の質問を用いたアンケートで五件法が用いられていた場合には「どちらともいえない」の回答を除外した。これによる除外回答数は、専門職学位課程のQ1で6件、Q2で14件、Q3で7件、Q4で8件である（学士課程、修士課程及び博士課程は該当なし）。

2. アンケートの集計結果

(1) 集計表・グラフ

Q1.大学から卒業・修了時まで学生が身に付けるべき知識や能力が明示されている。

	①そう思う	②ある程度 そう思う	③あまりそう は思わない	④そうは思わ ない
学士課程	618	1,056	540	123
修士課程	724	900	320	55
専門職学位課程	91	120	19	9
博士課程	179	195	63	23

Q2.授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。

	①そう思う	②ある程度 そう思う	③あまりそう は思わない	④そうは思わ ない
学士課程	299	842	889	309
修士課程	512	806	551	126
専門職学位課程	51	101	66	13
博士課程	120	207	95	39

Q3.教員が学生と向き合って教育研究に取り組んでいる。

	①そう思う	②ある程度 そう思う	③あまりそう は思わない	④そうは思わ ない
学士課程	940	1,089	243	67
修士課程	1,056	769	125	43
専門職学位課程	92	125	18	3
博士課程	252	156	39	13

Q4.大学での学修によって成長を実感している。

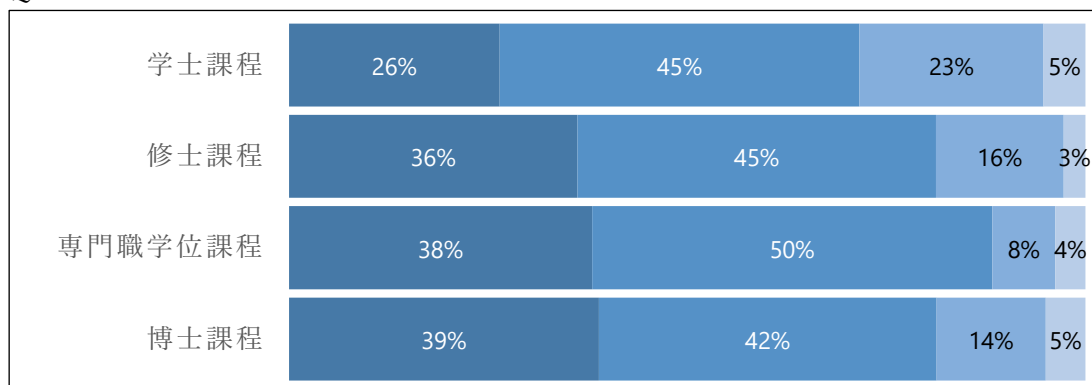
	①そう思う	②ある程度 そう思う	③あまりそう は思わない	④そうは思わ ない
学士課程	1,101	1,011	166	63
修士課程	1,145	738	83	25
専門職学位課程	125	95	11	7
博士課程	294	143	16	6

(2) 集計グラフ

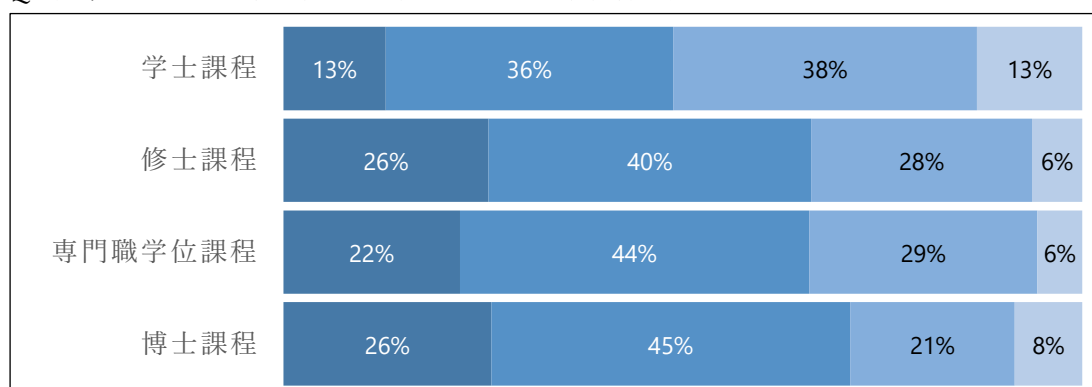
凡例 ■①そう思う ■②ある程度そう思う
■③あまりそうは思わない ■④そうは思わない

各回答の割合は、小数点第1位を四捨五入して表示しているため、合計が100%にならない場合がある。

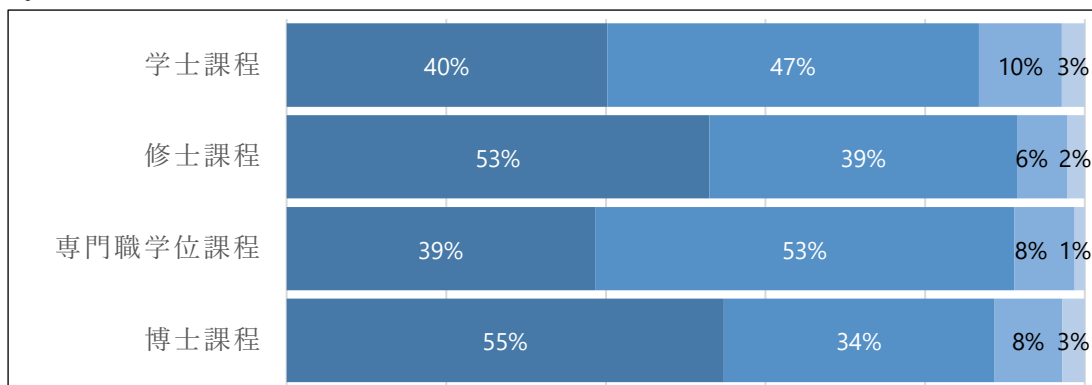
Q1.大学から卒業・修了時まで学生が身に付けるべき知識や能力が明示されている。



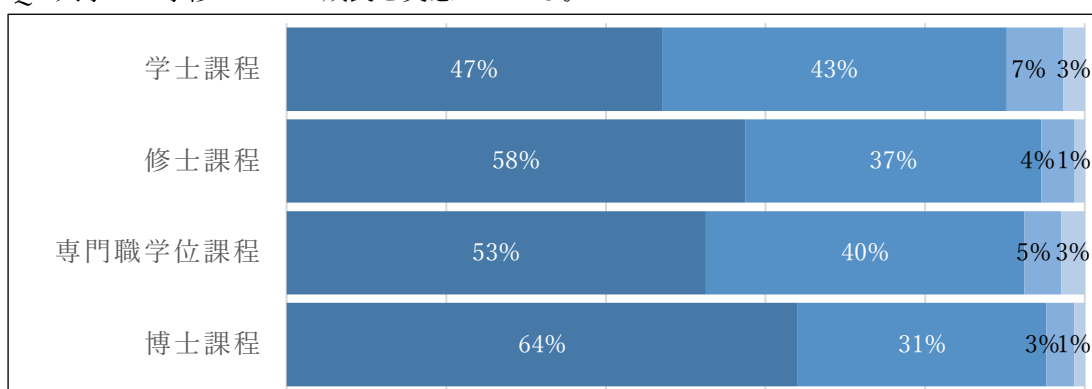
Q2.授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。



Q3.教員が学生と向き合って教育研究に取り組んでいる。



Q4.大学での学修によって成長を実感している。



3. アンケートの総括

Q1は、ディプロマ・ポリシーの認知度を測る質問である。本学は、学部・研究科、あるいは専攻・コースを単位としてディプロマ・ポリシーを制定しているが、ポリシーを学生へ明瞭に伝える工夫が必要と考える。

Q2について、本学は、各学部・研究科や全学共通科目を開講する国際高等教育院において授業アンケートを実施し、その結果を検証して担当教員にフィードバックするなど授業改善に活用している。しかし、特に学士課程において「③あまりそうは思わない」、または「④そうは思わない」との回答が半数を超えているように、アンケート結果がどのような授業改善に結びついたか学生には見えていないと推察される。そのため、他国立大学における学生へのフィードバック事例について調査を行い、各学部・研究科教務担当職員へ事例紹介を行った。内部質保証の観点から学生からのフィードバック、学生へのフィードバックは重要であり、各学部・研究科の改善事例を収集し、学生へのフィードバック実施に努める。

Q3とQ4では、概ね90%の学生から「①そう思う」、「②ある程度そう思う」との回答であり、本学の教育の質の高さに対する評価が得られたと言える。